

活動記録書

開催日： 平成29年11月2日（木） 晴	開催テーマ： 秋の鎌倉、岩瀬と今泉を歩く
開催場所： 今泉・岩瀬	記入者： 大門 利晴
参加人数： 寺社を巡る会員 男 30名 女 6名 計 36名	
<p>実施内容</p> <p>コース 大船駅東口交通広場～（バス）～白山神社前～白山神社～称名寺（開扉）～散在ケ池森林公園（昼食）～西念寺（法話拝聴）～大長寺（開扉）～大長寺前（解散）</p> <p>秋晴れの中、まずはバスで白山神社へ。源頼朝が京都の鞍馬寺から毘沙門天二体のうち一体をもらい受け、安置したといわれる毘沙門堂を参拝した。毘沙門天は帝釈天に仕える四天王の一つで仏法と仏法を信じる人を守り、北方を守護する神で多聞天とも呼ばれているそうだ。神社の前の2本の樹の間に張られた長さ7m、足は太さ20cmを超える藁の注連縄はかなりユニーク、神社の守護虫である大百足を模しているといい、毎年1月8日に行われる祭りの日に氏子が藁を持ち寄って作るという。今日は11月、注連縄はさすがにくたびれていた。参道の脇に「禅宗今泉寺」という石標があった。かつては神仏混淆であり、その時代の名残らしい。</p> <p>またこの地の生まれの<small>すいきていあめのひろまる</small>酔亀亭天廣丸というとぼけた名の江戸時代の狂歌師の歌碑があった。その名の通り酒好きであつたらしく「くむ酒は 是風流の眼なり 月を見るにも 花を見るにも」とあり同じ酒好きの身には親しみを覚えた。</p> <p>さて次は称名寺、弘法大師の開山と伝えられるだけに例によって弘法大師伝説がある。水の乏しいことから大師が岩肌に二つの穴を開け三日間祈禱したところ水が噴き出し男滝・女滝の二本の滝になったという。もとは円宗寺と称した密教寺院であったが元禄6年(1693)現在の浄土宗の寺院となった。</p> <p>次、散在ケ池森林公園を経て、防災広場へ。この辺りは食用ガエルとその餌として輸入されたアメリカザリガニの養殖場であった。かつての経済恐慌のあおりを受け閉鎖、田んぼになり食用ガエルとアメリカザリガニは野生化し、全国に広がり生息するようになった。</p> <p>西念寺は天保7年(1836)再建された本堂と庫裡が一棟になっている「本堂庫裡合造」と言われ鎌倉では唯一の珍しい建物で二度火災にあった。平成5年(1993)の調査でその事実が証明されている。</p> <p>大長寺は戦国時代の小田原北条氏二代目氏綱の養子綱成が玉縄城主としてこの辺りを治めていた時、妻の供養と国の平安を願って創建したという。4代目住職源栄は豊臣秀吉の小田原攻めの際、玉縄城主氏勝を説得、開城につなげたといわれている。北条氏建立の寺ではあるが、徳川家康との縁があり寺紋は「三つ葉葵」が用いられ、この階段は家康が籠に乗って上れるように長くしてあり、北条氏から徳川氏へと代々崇められた格式の高い寺である。</p>	
参加者の状況・意見等 紅葉には些か早かったが秋の空が天高く心地よい探訪であった。	
<p>次回の予定等</p> <p>バス探訪：11月24日（金）7時15分 金沢文庫駅西口釜利谷東小信号の新中洲橋寄り 次回：12月2日（土）10時 北鎌倉駅西口</p>	